

## 富士山に魅せられて「登頂山スキーへのこだわり」

2011年8月 ちば山の会 菊池典雄（S24年生まれ）

2010年5月22日、日本晴れの山スキー日和に恵まれ、わが山スキー部隊9名は富士宮新5合目を6:30に出発、12:30全員登頂、天にも昇るような素晴らしい豪快な富士山山スキーを堪能できた。このような大所帯は初めてであり、「私は高山病に弱く3000m以上は無理なの」と言っていたオールラウンダーの石橋さん・減量と筋トレが課題で途中、大腿の痙攣で断念しかかった舟山さん・山スキー（テレマーク）1年目にして驚異的上達を見せた住田さん・そしてすっかり山スキー仲間として数年前よりお付き合いさせていただいており遠路遥々四国から馳せ参じた岡田さんの計4名が初登頂山スキーを体験でき、まさにちば山山スキーは、全盛期を迎えた感を抱かせた。



小生がちば山に入会した2001年の5月に小倉さん・今西君と初めて富士山山スキーを挑戦して（3550mまで）以来10年目にして、トライは14回、登頂成功は8回で、その喜びを分かち合えた山スキー仲間はなんと計15名に達した。初体験者は一様にその昇天するような喜びを口にし、仲間同士、抱擁を交わすことも少なくない。登頂山スキー経験者は古い順（敬称略）に菊池・渡辺（俊）・岡田（悦）・長池・鶴田・吉川・MINMIN（HP：<http://homepage3.nifty.com/minminsroom2002/>）沢田（正）・石橋・舟山・朝岡・田形・住田・岡田（四国）・石松（船山）であり、最高齢は当時69才であった鶴田さんである。その詳細はHPの「山スキーの部屋」を参照されたし。

新潟市出身の小生にとって、裏日本であるがゆえに、生富士を目にする機会はほとんどなく、子供の頃からなんとなく富士の美しい姿に憧れを抱いていた。子供が小さいころオートキャンプの田貫湖で夏のボートと霞む富士山を眺めたり、お決まりのスパルライン5合目までのドライブ、精進湖での冬富士写真撮影など、下界から富士山を眺めるのがせいぜいであった。百名山を目指す登山に没頭し始めたころ、1996年の8月に毎日旅行社のツアーに参加し、29座目に初登頂した富士山ではあるが、その後は登山対象としての富士山への興味はすっかり薄れていた。

百名山の85座をほぼ単独で終了した2001年2月ちば山に入会、百座目の利尻は2003年6月29日であった。小学生からグレンデスキーを続けていた小生は、大学のころか

ら山スキーへの憧れ（山スキーの部屋に掲載済）を抱いており、自然に登山とドッキングさせた山スキーの魅力にはまって行った。百名山中 19 座は山スキーで初めて登頂したものである。13 年ほど前からアルペンテレマークに変え、更にのめり込み度が増し、山スキー仲間を半強制的に（小生の華麗なテクニックに目の当たりにして自然発生的に）テレマークに引き込んでいたのである。

グレンデスキー、登山それぞれをいくらやっても富士山山頂から滑走できるなんて想像もつかないのが当たり前である。25 年間勤務した千葉の海浜病院から眺められる冬晴れの真っ白な富士はとてもスキー滑走の対象となるとは思えない。以前、山スキールート集は数少ないとはいえ、富士山は掲載されていた。山スキー山岳会の会報にもいくつかの報告は掲載されており、おのずから本邦最高峰からの滑走への憧れが心に湧いてきたのは自然の成り行きであった。

小生は挑戦し始めてから 3 年、4 回目の 2004 年 5 月 8 日に初めて単独で登頂山スキーに成功した。この間、2001 年初体験報告「富士山山スキー：3550m での敗退と攻略の鍵」、9 月「富士山：富士宮ルート：剣ヶ峰登頂とこだわり」などの報告に登頂山スキーへの熱い思いを述べている。初登頂山スキーの喜びは今でもはっきり思い出せるが、その詳細は「山スキーの部屋」の報告を参考にさせていただきたい。それ以来、計 14 名の山スキー仲間と本邦最高峰の雲上からの大滑走を楽しむことができた。いくらスキー技術があっても、また、健脚で体力があっても、経験と情報収集に裏付けられた綿密な計画なくしては、富士の高嶺にスキーを担ぎあげて、安全に滑走できるわけではない。

富士山滑走の歴史は古く明治 43 年（1910 年）に遡るようであり、御殿場口にはオーストリア人、エゴン・フォン・クラッセルが 12 月 27 日に初めて富士山でスキーをしたことを記念した看板が掲げられていた。また富士山測候所に勤務経験のある方の HP <http://www.geocities.jp/nisi3776mbb/index.htm> には年表が掲載されており、山頂からの滑走は大正 3 年（1914 年）6 月上旬、黒田夫妻による須走頂上からとなっている。百名山のあの深田久弥も山スキーをこよなく愛し、廣瀬 潔と昭和 14 年にほぼ厳冬期といえる 3 月 2 日に剣ヶ峰からの滑走を成功させている。

最近山スキーは益々盛んになってきており、富士山山スキー人口もうなぎ上りであるようだ。適期の 5 月~6 月にかけての日本晴れの日には、青空のもと雪渓には山スキー・ボード・登山など 200~300 名が色とりどりの花を咲かせている。夏富士の喧噪の世界と異なり、好天のもと駿河湾を望む雄大な景色・雲上の極上ザラメ大斜面などなど、静かで豪快な富士山を堪能できるのは最高級の贅沢といえるであろう。

山スキーシーズンも終盤を迎えたこの時期、山スキー ML には北アルプスにならんで富士山山スキー報告が例年の様に飛び交うのである。

富士山にはそれぞれの思い入れがあり、通年で富士山に通い続けている豪傑、最近では富士山のみ山スキーエリアとして通い詰め、滑走可能ルートの隅々まで知り尽くしてい

る富士宮在住の有峰 K 岱さん、飛騨沢・富士山などでお会いし、3月に山頂から御殿場口までなんと標高差 2300mの全面パウダーを頂いた横浜の鉄人 K 木さんなどそれぞれのこだわりがあるようで、富士山でお会いした時に楽しいお話を聞かせていただいた。

小生のこだわりは、健康のバロメーターとして、体力と気力の続く限り毎年登頂山スキーを継続すること、数多くの山スキー仲間と富士山頂からの大滑走の醍醐味を味あわせてあげることである。

わが山スキー仲間は小生を含めてすでに還暦を越えた方々が多く、高齢化している。しかし、山に対する好奇心と気力は超一級品である。今後も安全に富士山登頂山スキーを成功させるべく、小生の考えているポイントをまとめてみよう。

1. 時期と天候：登頂山スキー成功の最大のポイントは天候である。GW以後から 6 月中旬までであり、下界（静岡・山梨）の最高気温が 25℃（23～26℃）前後の日本晴れの日を選ぶ。この時期は日により寒気が影響し不安定であったり、落雷注意報が出る日があるが、こういう日は避ける。山頂到着時に気温 3～5℃が予想され、山頂での風速は 10 m以下がよい。強風予想や、山頂での気温が 0℃前後では厳しく滑落の危険性が付きまとう。気温と標高の関係は、100m上がるごとに 0.6℃低下し、風速 1m増すごとに体感温度は 1℃低下するという山の鉄則と気象・山岳情報を収集し総合判断する。原則として午後 1 時～1 時半までには下山開始できるようにタイムスケジュールを設定する。風が強かったり、午後時間が経過するほど、急速にアイスバーンになり滑落事故の危険性が生ずる。

早い時期ほど下部（5 合目駐車場）まで滑走可能であるが、上部は低温による硬雪のため危険性が増し登頂は難しい。

## 2. 高齢者・初体験者登頂の秘訣

各登山口からの斜度は 15～20 度から始まり、一般的に徐々に斜度は増し、頂上直下は 35 度前後である。雪質は上記の適切な時期と絶好の日和を選択すれば、快適ザラメの大斜面滑走が体験でき、スキー技術的には山スキー経験のある中級者であれば問題ない。若い体力のあるアルペン使用者はシール登行にこだわるが、高齢者が多く、確実に登頂を目指す場合は、できるだけ早めに雪渓アイゼン登行に切り替えることが成功の鍵である。前後の歩幅はできるだけ狭く、斜度がきつくなれば、ゆるいジグを切ってゆっくり亀足で登ることが体力消耗を少なくする秘訣である。



スキーをザックにくくりつけ、8～10 kg 前後の重量を 6～7 時間担ぎ上げる体力が必須である。水分補給はスポーツドリンクを主体にハイドレーションでこまめ

に補給することもエネルギーの消費を少なくするのに極めて役立つ。

経験が少なく、体力に自信のあるひとほどオーバーペースで失敗する。3300~3400 mあたりを越すと低酸素により急速にペースがダウン、喘ぎ喘ぎの登行となる。高山病症状を回避する秘訣は、とにかく時間に余裕を持ち、ゆっくりした亀足省エネ登行を心がける。

気象条件に恵まれれば、このような配慮をすることにより初トライで全員登頂させることができている。

### 3. 各ルートの特徴（登頂の最適期・登頂までの所要時間）

①富士の宮ルート（GW後~6月初旬・所要時間約6時間）：もっとも短時間で登頂できる初体験者向けルート、東南向き斜面のため、雪消えは早いですが、山頂付近で低温になることが少なく安全で、6月初旬まで雪渓を乗り継いで十分滑走できる。条件と体力がそろえば剣が峰登頂とお釜滑走も可能。



②須走り口（GW後~5月末）所要時間7時間~7時間半）：東向け斜面のため、残雪が多い。標高2000mからの登り、斜度は比較的ゆるく、山中湖を眼下に時期が早いと山頂から駐車場までの広大な極上斜面で豪快な滑走が楽しめる。登頂は体力勝負。6月に入るとブル道確保のため、除雪により雪渓が途切れる。

③吉田口（所要時間7~7時間半）：スバルライン使用のため費用がかかる。斜面は3ルート中、最も急であり北東向き斜面のため、早めの下山が必須。吉田大沢の大斜面滑走は流涎もの。健脚・上級向き

「継続は力なり」である。11月の立山初滑り、1月下旬の草津芳ヶ平、5~6月の富士山、これらのイベントはちば山スキー部門の恒例行事として、いずれも10年ほど継続されており、ちば山の会のみならず、山スキー仲間の輪が広がっている。富士山のみならず、ご一緒していただいた山スキー仲間の皆さん全てに心から感謝する次第であり、今後もよりよき集いとして山スキーを通してのお付き合いを継続していきたい。

富士山へのこだわりが高じて一年前、新車の車両ナンバーを「3776」とした。新赴任地、信濃町から3776を駆りたてた今後も富士山通いは続くであろう。